那覇文化芸術劇場なはーと
こけら落としシリーズ



塩田千春 いのちのかたち

Shape of Life

Chiharu Shiota

塩田千春　いのちのかたち

Chiharu Shiota | Shape of Life



ごあいさつ

この度、那覇文化芸術劇場なはーとのこけら落しシリーズとして、「塩田千春 いのちのかたち」を開催致します。

なはーとでは、ロビー空間や小スタジオでのインスタレーションを今後展開していく予定でございますが、本作品はその記念すべき第一回目となります。

塩田千春氏は、日本を代表する世界的アーティストの一人であり、現在ベルリンを拠点に世界各国で展覧会を開催されています。

コロナ禍で県や国をまたいでの移動が困難な状況が続く中、なはーとしては塩田氏のインスタレーションを開催する事で、県外作家の作品や国外で評価の高い作品を鑑賞する機会を提供できるのではないかと考えました。また、塩田氏の作品は鑑賞するだけではなく、希望のメッセージを繋ぎ、紡ぎ、沖縄の多くの人たちの想いを作品のなかで表現する市民参加型の作品もあり、コロナ禍の中で願いを書くことで希望を取り戻す一つの行為にも繋がります。塩田氏はよく「劇場や美術館は心の病院だ」という猪熊弦一郎氏の言葉を引用します。まさに、塩田氏の作品に触れることこそが、この今の沖縄で開催することの意義であると、那覇市として考えております。

一人でも多くの方々が、塩田氏のインスタレーションを通して何かを感じて頂ければと思います。

2021年12月4日

那覇文化芸術劇場なはーと

謝辞

本展覧会の開催にあたり、ご協力を賜りました皆様方に
心より感謝の意を表し、篤く御礼申し上げます。
（50音順　敬称略）

上原誠勇
上原美智子
翁長直樹
喜納利充
倉成多郎
島袋克史
高良倉吉
田原美野
鶴田大
照屋勇賢
根間智子
萩原雄三
松島朝義

一般財団法人沖縄美ら島財団　琉球文化財研究室
くもじ・にじいろ館
那覇市立那覇小学校
アイテムを提供してくださった皆様

目次

005　ごあいさつ

006　謝辞

009　はじめに

| 寄稿 |

011　塩田千春　いのちのかたち
仲嶺絵里奈

014　塩田千春　いのちのかたち
燃え尽きた記憶と記録に再び命が与えられる時
中野仁詞

017　設営

| 図版 |

023　いのちのかたち

037　希望のダンス

049　小さな記憶をつなげて

| 記録 |

061　エピソード1　沖縄の記憶

079　エピソード2　願いを集める

087　エピソード3　重ねる対話

100　プロフィール

102　作品リスト

凡例

○ 本図録は2021年12月4日から2月20日の間、那覇文化芸術劇場なはーとで行われるプロジェクトに際し、主催者である那覇市が制作したものである。
○ 図像は本展出品作品、および本展リサーチ記録写真等で構成されている。
○ 作家略歴、作品リストは作家から提供されたものによる。
○ 文中で作品名を表記する場合には《 》、文中に編集による補足を挿入する場合には〔 〕を用いる。

はじめに

「塩田千春 いのちのかたち」を、2021年10月31日に開館を迎えた那覇文化芸術劇場なはーとのこけら落としシリーズの一環として開催させて頂く事となった。

なはーとは創造型劇場として、音楽や演劇ダンス等を鑑賞するだけではなく、様々なワークショップやインスタレーションを通して市民のみなさまと交流し、文化芸術の創造活動における様々な感覚を共有することを一つの目的としている。その初めの一歩となるインスタレーションが、作品を通して沖縄の人々の想いや記憶を繋げ、紡いでいく「塩田千春 いのちのかたち」である。会場となる劇場の共用ロビーは、誰もが自由に芸術作品に触れ、交流できる空間となるよう位置付けている広場である。

塩田千春氏と沖縄との縁は、人と人との繋がりの中で生まれた。第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館で塩田氏の展覧会をキュレーションした神奈川芸術文化財団の中野仁詞氏と、同財団の元職員であり、なはーとの開館開設準備総括の崎山敦彦との出会いがなければこの企画は実現しなかっただろう。

今回、中野氏には展示アドバイザーとしてご参加いただき、沖縄と東京とで計画を進めてきた。当初、消失した首里城の破損瓦に命を吹き込む作品《いのちのかたち》の構想が中心であったが、来沖した塩田氏は、沖縄で出会った人との繋がりから、「沖縄の人たちの想いや記憶も繋げ紡ぎたい」と思うようになり、それが2つ目の作品《希望のダンス》のモチーフとなった。

それを受けてなはーとでは、市民参加型作品として、希望のメッセージを集めるブースの設置を行う一方で、首里城の破損瓦の譲渡を受けるため国への申請や県との調整を進める事となった。

人と人、思いと思いの繋がりから塩田氏は、更なる3つ目の作品《小さな記憶をつなげて》の構想へと発展させた。捨てるに捨てられない想いが宿ったモノを糸で紡ぐ作品だ。首里城や沖縄の歴史、文化に携わる方々には、仕事で使用していたモノや大事な方から頂いた遺品などを提供頂いた。

塩田氏の作品制作に関わることで、人と人とが繋がりを持ち、その人々の想いが一つの大きなうねりとなっていく。塩田千春インスタレーション作品をとおして、アイテム集めなど、活動は外へと開いていき、気が付けば一つのプロジェクトとなっていた。

なはーとは開館したばかりであり、地域のコミュニティとの繋がりもまだ浅く、まさに今始まったばかりといえる。沖縄の那覇という地域の劇場から何が発信できるのか。塩田氏の《いのちのかたち》をとおしてその可能性を探っていきたいと強く思う。















EPISODE1

Memory of Okinawa

エピソード1　沖縄の記憶

2021年3月28日、首里城の焼失から約3年が経過した沖縄に、塩田氏は初めて訪れた。その日は風が強く、時にスコールのような豪雨だった。当初、沖縄での作品構想のメインテーマは、首里城の破損瓦を再生させることであった。首里城や瓦に宿る記憶をひも解くため、首里城、沖縄の瓦文化に影響を与えた陶工の墓地、壺屋焼物博物館を巡り、最後は当時建設中のなはーとで、作品の設置場所を確認した。



EPISODE 2

Collecting Hopes

エピソード2　願いを集める

タイムスビル1階エントランス　9月20日(月)－30日(木)
那覇市役所1階ロビー　11月1日(月)－9日(火)
なはーと1階共用ロビー　10月31日(日)－11月14日(日)
那覇市緑ヶ丘公園集会所 ―くもじ・にじいろ館　10月後半－11月上旬
那覇小学校　11月中



EPISODE 3

Dialogues with Okinawa

エピソード3　重ねる対話

塩田千春×上原美智子

塩田千春×照屋勇賢

那覇文化芸術劇場なはーと
こけら落としシリーズ インスタレーション
塩田千春 いのちのかたち

［展覧会］
2021年12月4日（土）–2022年2月20日（日）
那覇文化芸術劇場なはーと

主催｜那覇市

企画制作｜那覇文化芸術劇場なはーと

協力｜株式会社アトリエ塩田千春
佐藤冬果、横山佳世、浦上真奈、大野高輝、平林慎
公益財団法人神奈川芸術文化財団
沖縄タイムス

中野仁詞（展示アドバイス）

［カタログ］
アートディレクション＆デザイン｜高見清史（view from above）
執筆｜塩田千春、中野仁詞、仲嶺絵里奈
編集｜岩澤夏帆、浦野歩、富重聡子
印刷｜株式会社アイワード
発行｜那覇市 市民文化部 文化振興課

©2022 那覇市 and Chiharu Shiota
無断複写・転載を禁じます。
ISBN 000-0-000-00000-0 C0000

図録は、なはーと窓口にて販売中です。

＊窓口営業時間 10 時～19時、休館日（第1・3月曜日）を除く

＊なはーと窓口以外でのご購入については、下記までお問合せください。

《お問い合わせ》

那覇文化芸術劇場なはーと 企画制作グループ

TEL：098-861-7810

メールアドレス： kikaku-nahart@city.naha.lg.jp